

▶ 第25回目となる今回は、山梨県立産業技術短期大学校 生産技術科 1年 遠矢昌平さんが、OBARA 株式会社 取締役社長 山下光久氏 を取材しました。



経営者

OBARA 株式会社
取締役社長
山下 光久氏

▶ 学生 御社の会社概要についてお聞かせください。

▶ 経営者

自動車産業の発展とともに成長してきた溶接機器の総合メーカーです。当社の製品は、主に国内外の自動車メーカーの車体溶接ラインで使用されています。

▶ 学生 御社が独自の市場でシェアを持っている抵抗溶接機について教えてください。

▶ 経営者

抵抗溶接機とは、自動車ボディなどの薄い鋼板を高電流で接合させるための機器で、数枚の鋼板を数百キロで加圧しながら数千〜1万数千アンペアの電流を流すことにより溶接します。

▶ 学生 ものづくりにおいて大切にしていることを教えてください。

▶ 経営者

ものづくりの基本として力を入れているのが、モラルを優先する「人財育成」です。「財」は「たから」を意味します。社員には「感謝の心」「自ら動く勇氣」「時を大切にすること」という3つのことを常に伝えています。

「感謝の心」を持つことで、社員同士がお互いを尊重し、より良いものづくりができると考えています。「自ら動く勇氣」とは、様々なことを改善することや、困難に直面した時に「自分ならこうする」と考え、自発的に行動することです。「時を大切にすること」は、仕事以外のこと、例えば家庭などプライベートな時間も大切にしたいという考えです。

この3つのことを自然に全社員が行うことができれば、より

「人財」を大切に

良いものづくりができ、お客様に満足いただける製品を提供できる会社になっていけるでしょう。

また、家庭ではいつもしている挨拶やコミュニケーション、助け合いなど、「家でできていることを会社でもする」ことも動かかれています。

▶ 学生 御社の求める人物像を教えてください。

▶ 経営者

「素直な心」を持った人を求めています。心が素直であれば、人の意見に耳を傾け、分からないことに対し勇氣を持って質問し、理解することができます。また、皆と力を合わせて困難に立ち向かうこともできます。そうすれば新たにより良いものを作れます。

そして若いうちは、失敗を恐れずに行動してほしいと思います。本当の失敗とは「何もせずに時を過ごすこと」だと考えています。もし、行動して失敗したのであれば、その原因を追究すればよいのです。しかし、動かなければ、原因を追究することもできません。

取材を終えて…

山下社長は明るく分かりやすく質問に答えてくださったので、あまり緊張せずにお話を伺うことが出来ました。お話しから、社員を「人材」ではなく「人財」として大切にしている企業もあるということ学びました。また、「家でできていることを会社でもする」というのは、意外と難しいことだと感じました。例えば、家族となら気軽に会話ができますが、会社では部門ごとに遠慮や立場があるために半歩ほど身を引いてしまい、会話がしにくいこともあると思います。お互いに相手を尊重し、半歩ずつ寄り添えばその隙間がなくなり、会話はスムーズに進むと思います。OBARA株式会社は、このことに気持ち実践しているのがすごいことだと思いました。このようなすばらしい企業を知ることができて嬉しく思いました。ありがとうございました。

学生



山梨県立産業技術短期大学校
生産技術科
1年 遠矢 昌平 さん

▶ 学生 現在の日本のものづくりの特徴は何だと思いますか。

▶ 経営者

「新しいものができる」ことだと思います。同じ製品ばかりを作り続けていると他国もそれを作れるようになります。同じ製品を作るのであれば人件費の安い国の方がコスト面で有利になります。日本が世界と競争するためには、他国が参考にしなくなるような新しいものを、常に速いペースで創造していかなければなりません。しかし、「新しいもの」を創造するためのアイデアは頭の中で考えているだけでは生まれません。「新しいもの」の創造に必要なアイデアを生み出すためには、実際の現場に行ってみることが重要です。社員やお客様との何気ない会話の中にヒントがあるかもしれません。

そうした現場や社員、お客様からの「あったらいいな」という要望を見つけることが「新しいもの」を創造するためのアイデアになっていきます。この「あったらいいな」をできるだけ多く見つけ、できるだけ速く実現していくことが「新しいもの」を常に速いペースで生み出すことにつながると思います。



OBARA株式会社